

東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】～広域観光の推進～ 平成 26 年度の目標達成状況と主な取組の進捗状況について

I 作成の趣旨

本資料は、平成 25 年 3 月に策定した東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】～広域観光の推進～ に掲げられている目標の達成状況及び同プランに基づき実施する主な取組の進捗状況を東三河ビジョン協議会でとりまとめ、点検・公表するとともに、同プランのさらなる推進を図っていくためにまとめたものです。

II 目標の達成状況

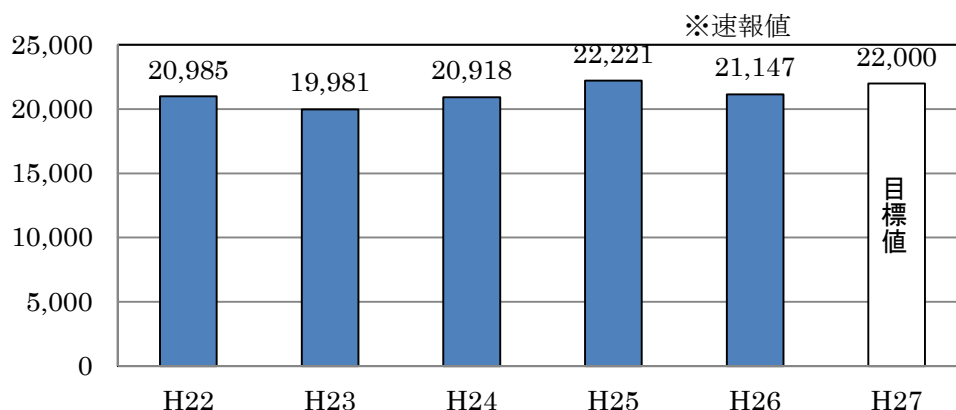
東三河振興ビジョン【主要プロジェクト推進プラン】～広域観光の推進～ に掲げる 3 つの目標の達成状況は、次表のとおりです。

| 項目 | 数値目標 | 計画当初 | 達成状況 |
|-------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 目標 1 観光客入込数の増加 | 22,000 千人 (平成 27 年) | 20,985 千人 (平成 22 年) | 21,147 千人 (平成 26 年) |
| 目標 2 宿泊者数の増加 | 2,000 千人 (平成 27 年) | 1,706 千人 (平成 21 年) | 1,761 千人 (平成 26 年) |
| 目標 3 観光ボランティアガイド数の増加 | 180 人 (平成 28 年 1 月) | 155 人 (平成 24 年 6 月) | 167 人 (平成 27 年 4 月) |

1 観光客入込数

- 観光客入込数については、平成 22 年から約 100 万人増加させ、平成 27 年には 2,200 万人とすることを目標としています。
- 平成 26 年の観光客入込数は、2,115 万人となり、平成 22 年から 16 万人増加しました。
- なお、平成 25 年は「B-1 グランプリ in 豊川」が開催され、58 万人が来場しました。

観光客入込数の推移と目標値(千人)

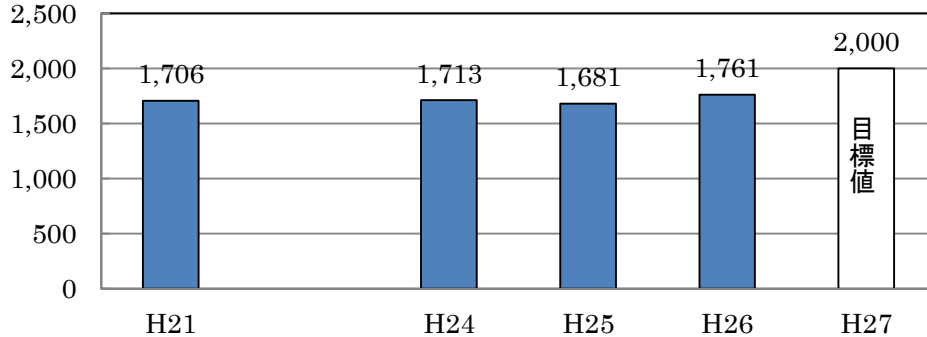


2 宿泊者数

- 宿泊者数については、平成 21 年から約 30 万人増加させ、平成 27 年には 200 万人とすることを目標としています。
- 平成 26 年の宿泊者数は、176 万人となり、平成 21 年から 5 万 5 千人、平成 25 年から 8 万人増加しました。

- これは近年、外国人観光客が急激に増加しており、東三河地域は主要な観光地のゴールデンルートに位置していることから、特に、豊橋市、豊川市、蒲郡市の外国人宿泊者数が大幅に伸びていることが影響していると考えられます。

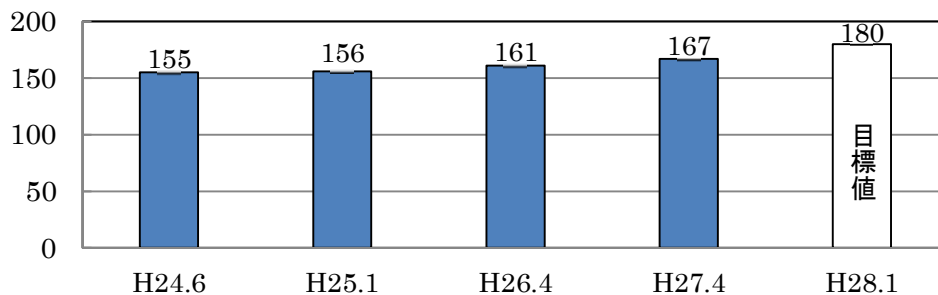
宿泊者数の推移と目標値(千人)



3 観光ボランティアガイド数

- 観光ボランティアガイド数については、平成 24 年 6 月時点から約 16%増加させ、平成 28 年 1 月には 180 人とすることを目標としています。
- 平成 27 年 4 月の観光ボランティアガイド数は、167 人となり、平成 24 年 6 月から 8%増加しました。新たに結成されたボランティアグループもあります。
- 今後は、広域的な幹線道路の整備により、交流人口の増加が見込まれるため、各自治体で実施しているボランティアガイドの育成に引続き力を入れ、各イベントやスポーツ大会などを通じて、住民自らが地元を PR できるような環境を作ることが必要です。

観光ボランティアガイド数の推移と目標値(人)



Ⅲ 広域観光のさらなる推進に向けて

- この地域の外国人旅行者が増えてはいるものの、東三河地域はゴールデンルートの通過点に過ぎず、宿泊のみにとどまっているのが現状です。今後は、東三河の観光資源を磨き上げ、地域の魅力を高めるとともに、観光に結び付けていくことが求められます。
- 道の駅「もっくる新城」がオープンし、新東名高速道路や三遠南信自動車道、また国道 23 号バイパスの整備が着実に進み、多方面からのアクセスが飛躍的に向上していきます。こうした契機を確実にとらえ、東三河の地域資源を活かし、魅力を発信していくためには、広域観光エリアとしての周遊性を一層高めつつ、地域一体となったプロモーションを強化していくことが必要です。

IV 平成 26 年度の主な取組の進捗状況

1 広域観光エリアとしての魅力の向上

(1) 多様な地域資源の磨き上げ

<県> 「いらご さららパーク」一部供用開始

- 自然公園内の伊良湖休暇村公園「いらご さららパーク」が平成 26 年 10 月に一部エリアを供用開始。全国初となる、砂丘とオアシス（湧水）の再生をテーマとした公園を、東三河の観光拠点として平成 29 年度完成予定。



(記念植栽の様子)

<田原市> 蔵王山展望台リニューアルオープン

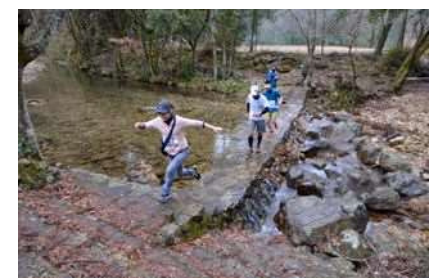
- 三河湾を一望できる蔵王山展望台が、平成 26 年 10 月にリニューアルオープン。「田原市をめぐる多様なツアーの拠点施設」「再生可能エネルギーのシンボル施設」という 2 つの統一したテーマのもとに再構築。



(蔵王山展望台)

<新城市、設楽町、東栄町、豊根村> 「地域おこし協力隊」制度の活用

- 平成 26 年度は、新城市で 4 名、設楽町で 3 名、東栄町で 5 名、豊根村で 2 名採用。地域情報収集と発信に従事。情報発信や商品開発による農業振興・観光振興のほか、都市部大学との域学連携、廃校を活用した事業提案等に従事。



(愛知県民の森「ダモンデトレイル」)



(体験型ゲストハウス「だのん」)

<設楽町商工会> STT48プロジェクト

- 3 町村（設楽町・東栄町・豊根村）の 4 つの商工会（設楽町商工会・津具商工会・東栄町商工会・豊根村商工会）が一体となり、奥三河地域の特産品、観光商品を開発。観光施設などでの販売を強化。



(STT48プロジェクト(もっくる新城にて販売))

＜豊根村＞豊根村観光交流アクションプラン策定

- 2020年までに観光交流人口100万人を目指した「豊根村観光交流アクションプラン」を平成26年12月に策定。村の閑散期を無くし、観光客の滞在時間を長くするためのプランを取り入れ、具体的な方法などを検討。



(豊根村観光交流アクションプラン)

＜蒲郡市観光協会・みかわdeオンパク実行委員会＞ みかわdeオンパク

- 三河地方の祭りや郷土料理、自然などを体験するイベント。今回で4回目。プログラム主催者として「GOGO三河湾協議会」も加わり、エリアが拡大。平成27年度からは、春から初夏にかけての「オンパク」も実施。
 - ・開催期間：平成26年10月1日(水)～11月9日(日)
 - ・参加者数：8,557人



(体験プログラム「はちみつ採集とろうそく作り」)

＜東三河広域経済連合会＞ 自動車ブランディング化プロジェクト

- 自動車産業のPRと三河港の観光拠点としての活用を合わせ、初となる三河港自動車産業観光ツアーを初の実施。三河港に集積する自動車産業に着目し企画。
 - ・開催日：平成26年11月24日(月)



(三河港自動車産業観光ツアー)

＜蒲郡商工会議所・東三河広域経済連合会＞ ヘルスケアツーリズム・モニターツアーの実施

- ラグーナテンボスにおいて、「健康『Design』探求の旅2014～know why & know how～」を開催。アンチエイジングドック等の17のプログラムを実施。ヘルスケア分野における新産業創出の展開を支援。
 - ・開催期間：平成26年10月9日(木)～10月12日(日)



(モニターツアー)

(2) 広域観光エリアとしての周遊性の強化

＜新城市＞ 新城ラリーの開催

- 日本全国から過去最高の観戦者が来場し、新城総合公園にて開催。新城市をはじめとする周辺自治体の知名度の向上及び経済効果に寄与。
 - ・開催期間：平成26年10月31日(金)～11月2日(日)
 - ・来場者数：約48,000人



(新城ラリー当日)

＜県＞ スポーツ関連事業

○ 新城ラリーのPR

平成26年8月24日（日）のザザシティ浜松（静岡県浜松市）を始め各地で開催（計6回）。大会PRパンフレット（20,000部発行）における見どころ及び観光スポット情報の発信や、「秋ぴあ」（70,000部発行）などでPRを行うとともに、ラジオや県の広報媒体を活用したラリーの情報を発信。また、大会会場での花男子ステージ及びチェンソーアートの実演・ブース出展などを実施し、幅広い層を対象に、観戦者の裾野拡大や奥三河の魅力を発信。



（ザザシティでのPRイベント）

○ 奥三河パワートレイルの開催

茶臼山高原（豊根村）から湯谷温泉（新城市）まで63kmを走るトレイルランニングの大会を開催。奥三河パワートレイルの立ち上げを行うとともに、練習会などを実施。さらに、県の広報媒体を活用した大会の情報発信も実施。

- ・開催期間：平成27年4月11日（土）～4月12日（日）
- ・出走者数758人（うち完走者数234人）

＜ええじゃないか豊橋サイクルフェスティバル実行委員会＞ スポーツイベントによる地域活性化

- のんほいパーク（豊橋市）で「第2回ええじゃないか豊橋サイクルフェスティバル」を開催。関東圏はじめ、地域内外から多くの参加者や観戦者が来訪。
 - ・開催期間：平成27年3月1日（日）
 - ・来場者数：約1,800人



（第2回ええじゃないか豊橋サイクルフェスティバル）

(3) 地域ブランドを構築し、広域観光エリアとしての一体感を醸成

＜愛知県東三河広域観光協議会＞

「ほの国」の普及定着の推進

- 観光展・物産展に出展し、プロモーションを実施。東三河が一体となり、地域内外の観光展・物産展に出展し、「ほの国」の普及定着を推進。



（ほの国東三河
いいもの・うまいものフェア）

＜県＞ 地産地消推進事業

- 県内農林畜水産物を利用して県内食品製造業者が商品化した「ふるさと食品」による、「愛知のふるさと食品コンテスト」を開催。「うずらたま5くん！！みそ味」が最優秀食品として選出。



（うずらたま5くん！！みそ味）

2 広域観光エリアとしての魅力の発信

(1) 地域一体となったプロモーションの展開

＜奥三河やらまいかプロジェクト実行委員会・
花祭の未来を考える実行委員会＞ 三河の山里 PR 促進事業

○ 「きてみん！奥三河 ～三河の山里展～」

東山動植物園で開催し、奥三河の観光PR、奥三河物産展、
花祭りの実演・交流会を開催。

- ・開催期間：平成26年11月29日(土)、30日(日)
- ・来場者数：約30,000人



(きてみん！奥三河 東山動植物園)

(2) 多様な情報発信媒体の活用促進

＜県＞ 穂っとネット東三河の活用

○ ウェブページ及びフェイスブックを活用して、東三河の観光情報をPR。

- ・アクセス件数506,171件(平成26年4月1日～平成27年3月31日)



＜愛知県東三河広域観光協議会＞ ロケ誘致支援事業

○ 「ほの国東三河ロケ応援団」は、東三河地域の豊かな自然や歴史・文化等、恵まれた立地特性を活かし、TVドラマや映画のロケを誘致。TVドラマ「ルーズヴェルト・ゲーム」等により、東三河地域の地域振興や全国への情報発信に寄与。



(「ルーズヴェルト・ゲーム」ロケ風景)

(3) イベント・コンベンションの誘致促進

＜蒲郡商工会議所＞全国ご当地うどんサミット2014in蒲郡

○ 「全国ご当地うどんサミット2014in蒲郡」が地元ラグーナテンボスにて開催。

全国ご当地うどんサミット2013in東近江、全国まるごとうどんエキスポ2014in秋田・湯沢にて1位を獲得した蒲郡の「ガマゴリうどん」出品。

- ・参加団体：24店舗(過去最多)
- ・来場者数：約20,000人



(全国ご当地うどんサミット2014in蒲郡)

(4) 圏域を超えた広域連携の推進

＜みかわdeオンパク実行委員会＞ オンパク事業(再掲)

＜豊橋市・蒲郡市・新城市・田原市＞

東三河各地でのジオツアーの展開

○ 東三河各地の豊かな自然や優れた文化遺産にふれる、特色あるジオツアーを展開するなど、東三河ジオパーク構想の普及・啓発活動を実施。



(鳳来寺山・ジオツアー)

(5) 海外からの誘客強化

<県・愛知県東三河広域観光協議会>

国際観光推進事業、東アジア観光客誘致促進事業インバウンド誘致事業

- 外国人宿泊者数：平成 25 年 111,564 人→平成 26 年 165,557 人（↑53,993 人増加）
アジア地域の外国人宿泊者数：平成 25 年 88,474 人→平成 26 年 153,877 人（↑65,403 人増加）
（※上記調査対象自治体：豊橋市、蒲郡市、田原市、新城市、豊根村）

3 広域観光を推進する人・環境・基盤づくり

(1) 観光を支える人材の育成

<奥三河地域雇用創造協議会>実践型雇用創造事業

「観光」「農商工連携」を重点分野として、「おとなが楽しむ手軽な田舎」をコンセプトに、奥三河地域における雇用創造事業を実施（平成 26～28 年度）。

奥三河高原「グリーン・ツーリズム」セミナーや、奥三河高原「ソールフード」セミナー等を実施し、地域情報の収集・編集力、地域資源を活用したプログラム開発・企画力等を持つ人材を育成。



(セミナー)

<豊川市> 観光まちづくりボランティア講座

- おもてなしの心を活かして、観光による「まちおこし」や「まちづくり」に協力していただく人材の育成を目的として実施（年 5 回、延べ 115 名が受講）。市内観光地の視察や、グループワーク、ボランティア実習等を通じ、地域の観光資源を改めて知ることができ、観光まちづくりボランティア活動に対する意欲の向上を促進。



(豊川稲荷総門で説明を聞く受講者)

(2) 美しい景観づくりの推進

<県> 違反屋外広告物の適正化事業

- 屋外広告物の適正化について、県及び東三河の 8 市町村の間で年間 5 回にわたり会議を開催し、情報共有や適正化の取組みについて検討。
その結果、重点的に取り組む内容として「はり紙や広告旗などの簡易除却」及び「屋外広告物を設置するときの基本的なルールに関する普及啓発活動」を推進することとなり、8 市町村で簡易除却を行うとともに、田原市において普及啓発活動を実施。

(3) 広域観光を支える観光基盤・施設の整備推進

<新城市> 道の駅「もっくる新城」オープン

- 平成 27 年 3 月 21 日、新東名の新城 IC 出入り口交差点横に、「奥三河観光ハブステーション」を基本コンセプトとした道の駅「もっくる新城」がオープン。



(「もっくる新城」)

＜豊根村＞ 道の駅整備事業

- 地域住民からも愛される新たな観光交流拠点を整備コンセプトに「グリーンポート宮嶋」の建て替えを実施。平成 27 年 4 月 18 日にリニューアルオープン。



(「グリーンポート宮嶋」)

＜県・市町村・経済団体＞ 国への働きかけ

- 三遠南信自動車道、名豊道路の未開通区間の早期整備や、浜松三ヶ日・豊橋道路の早期実現等を地域が一体となって国に働きかけるなど、広域的な幹線道路網の整備を促す取組を推進。

＜県＞ 道路整備事業

- 東三河縦貫軸、北設井桁幹線軸

平成 27 年 6 月 6 日、北設井桁幹線軸の一つである、一般国道 473 号設楽バイパス (L=約 3.1km) が開通。現在事業中の三遠南信自動車道へのアクセス性の向上に寄与。



(設楽バイパス開通式)